

「家族と地球」をテーマに グローバルフェスタJAPAN2007開催

2007年10月6日・7日
日比谷公園(東京都千代田区)

ワールド・コラボ・フェスタ2007開催 ＜名古屋市＞

中部地域で最大規模を誇り、今年で4回目を迎える国際交流・国際協力、多文化共生などをテーマとしたイベント「ワールド・コラボ・フェスタ2007」が今年も名古屋市内で開催される。

開催日時は平成19年10月27日(土)・28日 10:00～18:00。

会場では今年の7月、8月に実施され、一般の市民が開発途上国で行われている政府開発援助(ODA)の現場を視察して、その意義や今後の展開について考える「ODA民間モニター」による視察の報告会も行われることになっている。

問い合わせ

財団法人名古屋国際センター
交流協力課(民間交流係)

TEL: 052-581-5689

e-mail: vol@nic-nagoya.or.jp



今年で17回目の開催を迎えるグローバルフェスタJAPAN2007(主催:グローバルフェスタJAPAN2007実行委員会)が「国際協力の日」にあたる10月6日に開催された。今回のイベントは「家族と地球」をテーマに外

人とのかかわり 「絆」を考える国際協力

務省、国際協力機構(JICA)、国際協力銀行(JBIC)などの国際協力関係機関、ユニセフやWFPなどの国連機関、草の根的な活動を行うNPOや、NGOなど約230団体が参加し、2日間で述べおよそ8万人が来場した。ステージでのイベ

ントをはじめ、各団体のブースではさまざまな展示やワークショップなどの催しが行われた。そのひとつに今年の夏、政府開発援助(ODA)が実施されている海外の現場視察を行ったODA民間モニターによる帰国報告会も行われ、今年度から新たに参加した高校生のモニター報告も行われた。(詳細は次ページ参照)

第4回開発教育・国際理解教育 コンクール表彰式

同コンクールは学校教育において、開発教育、国際理解教育を行う際に、子どもたちと教師がコミュニケーションを取りながら、国際協力と国際理解の必要性について学び、啓発を行うための教育ツールの募集を教育関係者や一般を問わず行っている。

今年度は映像素材部門、授業実践事例部門、教材部門の3

部門があり、映像部門は鳥取市立醇風小学校教諭長田良一氏(作品名:おにいちゃん(せなか))、授業実践部門では千葉県市川市立天野小学校教諭太田美穂子氏(学習テーマ:持続可能な社会に向けて環境保全に取り組む児童の育成)がそれぞれ外務大臣賞を受賞した。(教材部門は外務大臣賞の該当作品無し)

修学旅行で行ってみよう! 「国際協力プラザ」

国際協力プラザ(東京・文京区)では、年間を通して修学旅行、総合学習で国際協力について学習する小中高生の受入を行っています。詳しくは国際協力プラザWEBサイトをご覧ください。

国際協力プラザ <http://www.apic.or.jp/plaza/>

■お問合せ・お申し込み 国際協力プラザ
TEL:03-3947-0491 FAX:03-3947-4492 E-mail:kyouiku@apicplaza.ne.jp



創刊 1946(昭和21)年5月1日

発行所
日本教育新聞社

〒105-8436
東京都港区虎ノ門1-2-8
電話03(5510)7777(大代表)
郵便振替 00150-8-196500

©日本教育新聞社 2007

インターネット かわら版

企画制作
日本教育新聞社
協力
(財)国際協力推進協会
(APIC)

INDEX

- 1 「家族と地球」をテーマに
グローバルフェスタJAPAN2007開催
- 2 高校生が見た、聞いた、感じた。国際協力の現場
ODA民間モニター(カンボジア)の視察報告

棚橋志穂さん(青山学院高等部1年)

高校生が見た、聞いた、感じた。 国際協力の現場

～ODA民間モニター(カンボジア)の視察報告～

2007年10月6日・7日 日比谷公園(東京都千代田区)



今年も実施された、平成19年度のODA民間モニターは、インドネシア・エチオピア・中国(7月実施)、カンボジア・カメルーン・ホンジュラス(8月実施)の6カ国に60が派遣され、そのうちカンボジアでは初の試みとして6人の高校生が参加した。

参加者の1人、棚橋志穂さん(青山学院高等部1年II写真)は10代の視点から今回視察したODAの案件について自らの感想や、今後の考えを外務省フリースの報告会で発表した。



棚橋志穂さん(青山学院高等部1年)

カンボジアでは8件の支援案件を視察、中でも印象に残ったのはベトナム戦争の名残の不発弾や地雷の撤去の支援と世界遺産の指定を受けたアンコールワット遺跡の修復作業の支援と語った。

棚橋さんは中学生時代に学校のプログラムでフィリピンの学校に通えない貧困層の子どもたちの家を訪問した経験があり、そのときに「貧しい」「学校に通えない」「職業に就けない」「貧しい」という貧困のサイクルについて関心を持ち、「どうすれば貧困を断ち切れるのか?」

関心を持つことが国際協力への第一歩

と考えると、今回のカンボジアの視察についてもこの観点に基づいて視察することを心がけたという。

視察を体験するまで、棚橋さん自身、ODAは自分にとって遠く、漠然としたイメージだったが、視察を通じて、日本が展開する支援は国家間の取り決めにもとづく大きな計画であるにもかかわらず、人と人のつながりを重視した内容であることが印象的だったという。

帰国後、ODAの支援や貧困などの問題意識に目覚めた棚橋さんだが、自分の周囲の人間がODAの当事者であることを認識していないことに気づき、「ODAは批判されがちだが、批判する人は自分がODAの当事者である」という認識が薄いのでは?という考えにいたった。そして、今後のODAには日本の国益に沿いつつ、カンボジア景観や生活を損なわないカンボジアのための支援を期待したいと語る。

今後棚橋さんは、自分が将来国際協力の仕事に就いたとして貧困を根絶できるとは限らないという認識から、今の自分出来ることとして、この案件についての報告で人々に報せると同時に、国際協力に対して興味を失わないようにすることを心がけていこうと考えている。

自分をはじめ「知る」ということに能動的である必要があると思うと発表をまとめた。

周囲の人間がODAの当事者であることを認識していないことに気づき、「ODAは批判されがちだが、批判する人は自分がODAの当事者である」という認識が薄いのでは?という考えにいたった。そして、今後のODAには日本の国益に沿いつつ、カンボジア景観や生活を損なわないカンボジアのための支援を期待したいと語る。



カンボジア視察の様子



<http://www.apic.or.jp/plaza/tv/>

**ODAインターネットテレビで
開発途上国の映像を配信**

「ODAインターネットテレビ」<http://www.apic.or.jp/plaza/tv/>では国際協力の現場の映像が配信されており、国際理解教育や開発教育の教材として、今後の授業での活用が期待される。DVD版も無料配布されている。

問い合わせ：(財)国際協力推進協会(APIC)
電話：03-3947-2491 E-mail：odatv@apicplaza.ne.jp